



【栃木西中：運動会】



「誰一人 取り残さない教育の推進」



栃木市
マスコットキャラクター
とち介

『第3期栃木市教育計画』

基本理念

希望に向かい 伸び伸びと個性を発揮し
互いに認め合いながら より良い社会を築いていく
‘とちぎ愛’ に満ちた人を育てます



栃木市教育ニュース



「地域とともにある学校」をテーマに、学校の様子を市民の皆様にお知らせします。

地域とともにある学校



【赤津小 3年生校外学習：いちご農園】



【三鴨小 5年生校外学習：田植え体験】



【千塚小 音楽鑑賞会：警察音楽隊】



【大平西小 1・2年生：さつま苗植え】



【大宮北小（校内教育支援センター）
いろどり教室：見守りボランティア】



【小野寺小 2年生まち探検：小野寺駐在所】

いいまちにはいい学校がある…いい学校はいいまちをつくる



『栃木型教育の軌跡と、未来への創出』 ～豊かな地域資産を次世代の子どもたちへつなげる～

栃木市立美術館の前に、長い沿革史を変遷してきた栃木市立栃木中央小学校（旧栃木第一小学校、旧栃木第二小学校）があります。文豪で知られる山本有三先生は、この学舎で学び・卒業し、1960年に本市の名誉市民第一号となりました。少年時代を描いた自伝的作品『路傍の石』の中で『～たったひとりしかない自分を、たった一度しかない一生を～』の言葉に象徴されるように、生命や人権を尊重する精神は、本市の教育を推進していく際の根幹となっています。

本市は、古きよき伝統を継承しつつ、あらゆる分野で新しく生まれ変わろうとしている魅力あふれる地域です。嘉右衛門町地区が国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、渡良瀬遊水地がラムサール条約の登録湿地になり、西方城跡が国指定史跡になるなど、いずれも、先人が守り続けてきた地域資産であり市民の誇りです。これらを次世代を担う子どもたちへどう引き継いでいくのが大切です。

本市の将来都市像は『豊かな自然と共生し、優しさで強さが調和した活力あふれる栃木市』です。ところで、教育を推進する際に最も大切にしている事柄に生命・人権の尊重があります。山本有三先生の生き方や様々な作品の根底にあるものは、まさに生命尊重・人権尊重・絆の教えです。本市では、その精神を根づかせる実践を続けています。主な取り組みに、人と人との絆を大切にされた実践があります。子どもの教育は、学校・家庭・地域など、全ての人が子どもにかかわりながら、見守り・育てていくことが大切となります。その核となる取り組みが平成24年にスタートした「とちぎ未来アシストネット事業」です。これは、未来を担う子どもたちのために、『ふるさとで育む人づくり・まちづくり』をスローガンに学校・家庭・地域を一体とした地域ぐるみの取り組みを行っています。

さらに、本市の自然・歴史・文化を次世代へつなぐ「ふるさと教育」の推進も行っています。このように『希望に向かい、伸び伸びと個性を発揮し、互いに認め合いながら、より良い社会を築いていく“とちぎ愛”に満ちた人を育てます』を基本理念とし、「栃木型教育」の具現化を図る取り組みは、次々と成果を重ね、価値を創出しています。本市は、四季折々の素晴らしい自然に加え、様々な歴史遺産や山本有三先生を始めとした著名な文化人・芸術家を輩出しており、自然・文化・歴史の息づく素晴らしい地域といえます。これら地域にある全ての物や人が栃木市の未来を担う子どもたちにとっては、貴重で大切な環境であり、学びの場となっており、これこそが地域創生の要になるものと期待しています。



教育長職務代理者 後藤 正人



教育委員の活動日誌



教育委員は、栃木市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号の『教育委員の活動日誌』では、新任委員2名の紹介をします。

新任委員2名紹介

この度教育委員を務めさせていただくことになりました五十嵐幸男と申します。

栃木市は緑溢れる山々、広大な渡良瀬遊水地と豊かな自然に囲まれ、歴史ある街並に郊外には日本一のビール麦畑が広がっています。

そして、栃木市をホームタウンとして活躍をします栃木シティフットボールクラブは、スポーツで街を元気にしてくれます。

たくさんの誇れる資源を子どもたちに肌で感じてもらうながら、共に元氣な栃木市にしていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

教育委員 五十嵐 幸男



教育委員を務めさせていただくことになりました岩崎好宏です。微力ではございますが、栃木市の教育の発展に貢献できますよう努力してまいります。

子どもたちの周りにはいつも笑顔があふれています。読み聞かせやこども食堂などを通して、子どもたちを支えているようで喜びや成長を与えてもらっています。

子どもたち一人ひとりの個性が尊重され、健やかに成長できる環境の充実に向けて、保護者、学校（教職員）、地域のすべての人がつながり支え合っていきましょう。よろしくお願いたします。

教育委員 岩崎 好宏



栃木市の教育 子どもたちの笑顔のために！

～教育委員から～

市民の皆様ぜひ知っていただきたい事業を紹介します！

渡良瀬遊水地事業を紹介したいと思います。2012年にラムサール条約湿地に登録されました。広大な湿地帯は四季折々と様々な表情を見せてくれます。春の訪れヨシ焼、真っ青な空の夏、紅葉の秋、冬の雪景色。心奪われます。

そしてコウノトリの繁殖、チュウヒ…毎年土手の上にはたくさんの望遠鏡が所狭しと並びます。自転車好きにはたまらない「わたらせサイクルパーク」。BMXなどが楽しめるパンプトラックもあります。熱気球の係留体験、カヌー、ヨシ細工などの体験もできます。

皆さまぜひトライしてみてください！

教育委員 西脇 はるみ



「おやこ劇場」をご存じですか。劇団ではないんです。体験活動や舞台鑑賞、子育て支援や不登校支援など、子どもも大人も心がふっとゆるむようなあたたかな場が広がっています。子ども時代に本物の舞台芸術にふれることで、想像する力や、人の気持ちに寄りそう力が自然と育まれていきます。心を震わせる体験は、その子の心の中でずっと光続け、人生を支えてくれる宝物に！家族や仲間と一緒に味わうその時間は、きっと「とびっきり子ども時代」として大切な記憶になります。親子の絆も、地域のつながりも、ここから育っていることを感じます。

教育委員 館野 知美



今年2月から館野委員と始めた「おとのえほん」。情緒や想像力を豊かにしていきたい等、いろいろな目的はありますが、私たちの一番の思いは絵本の読み聞かせ+（プラス）音楽の力で子どもたちや見てくれた人たち一人ひとりの心に何かを感じ、響いてほしいという思いで活動しています。

その時に心に残らなくても時間が経つとじんわり心が温まる…。

「おとのえほん」を見てくれた方たちがそんな思いになれるよう私たちもたゆまぬ努力を重ねていきます。色々なイベントにも参加していますので、是非足を運んで下されば幸いです。

教育委員 大塚 裕子



全国に1万以上の「こども食堂」があるとのことですが、市の開設運営補助金の効果もあって栃木市内にも8カ所設置されています（栃木市HP）。

私も地元の「キッズプラザなかよし」に参加していますが、幅広い年代のボランティアが協力し、子ども・保護者・地域の皆さんの居場所・交流の場となっています。食材の提供など協力の形は様々あります。皆さんも地元のこども食堂に参加・協力してみませんか。笑顔・感謝・温かさ・学び・つながり・役割などに会えるはずですよ。

教育委員 岩崎 好宏





栃木市版 部活動の地域移行・展開



令和5年度から学校教育で行ってきた「学校部活動」を、社会教育の一環として位置づけた「地域クラブ活動」へと移行・展開する実践研究を進めています。

令和6年度は、実践研究の2年目として、市内5つの中学校で計9の部活動において取り組みを進めてまいりました。

令和7年度は実践研究の3年目として、さらに対象を広げ、市内10校19部活動での取り組みを進めてまいります。



西方中学校弓道部と地域指導者

【令和6年度の実践研究校と対象部活動】

- ①吹上中学校：女子ハンドボール
卓球・バドミントン
- ②大平中学校：陸上競技
女子バドミントン
- ③大平南中学校：男子卓球
男子バレーボール
- ④西方中学校：弓道
- ⑤岩舟中学校：柔道

部活動の地域移行が、対象中学校でのモデル事業としてスタートしました。完全に移行されるのはまだ先になりそうですが、学校と地域そして家庭でのすり合わせと調整、そして理解をもって推し進めていく必要があるのかなと思っています。

まだまだ乗り越えるべき課題もありますが、部活動を通して築き上げる仲間との友情や健全なる心身の育成は、部活動の運営のあり方が変わったとしても、そこのところは今も昔も、そしてこれからも変わらずに部活動の意義を大切にしていきたいですね。

教育委員 五十嵐 幸男



教育長通信 ちょっといいはなし ～「ダイジョブ！」の連鎖～



昨年暮のことです。私は都内での用件を済ませた後、東武浅草駅に向かう地下鉄の中で吊革に身を委ねていました。歳の瀬とあって車両内は結構な混み具合であるのに重ね、効き過ぎるくらいの暖房のせいでムンムンしている状態でした。

いくつ目かの駅でドアが開くと、一歳くらいの赤ちゃんを抱いた若いママさんが乗車してきました。程なく、赤ちゃんがぐずり始めました。それもそのはず、人いきれと暖気とで赤ちゃんにとっては決して快適ではない車内環境でしたから。

若いママさんは、赤ちゃんの背中を軽くポンポン叩いたり、両膝でリズムを取ったりしながら懸命にあやそうとしますが、一向に効き目がありません。ぐずり声はだんだん大きくなり、とうとう泣き声に変わっていきました。ほぼ満員に近い車両内に、赤ちゃんの大きな泣き声が響き渡ります。中には、露骨に不快そうな表情をする向きも少なからずあり、若いママさんも赤ちゃんと一緒に泣きたいくらいの気持ちであろうと、どうすることもできないでいる自分を不甲斐なく感じていた矢先のこと。その母子の前に座っていた若い女性が席を譲るために立ち上がろうとしました。しかし、ママさんは「ありがとうございます。でも、立っている方がまだよいので。みなさんにご迷惑をおかけしてごめんなさい…」と、申し訳なさそうに言いました。すると、どうでしょう。席を譲ろうとした若い女性が、片言の日本語で「ダイジョブ！ダイジョブ！アノ（ね）？」と、隣に座っている友達らしき女性に同意を求めるように言いました。すると、隣の女性はさらに大きな声で「ダイジョブ！ダイジョブ！」と繰り返したのです。この、東南アジアからのインバウンドと思われる若い女性たちの言動が、車両内の重苦しい空気を一変させたことは言うまでもありません。

泣き出したいくらいに、いたたまれない気持ちでいたであろう若いママさんを救ったのは、私を含め乗客の圧倒的多数を占めていた日本人ではなく、片言の日本語に込められた精一杯の思いやりだったのです。忘れられない、ある冬の日の出来事でした。

教育長 青木 千津子

【編集後記】 “教育委員会だより 絆” は市民の皆様にも、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25
電話：0282-21-2467 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp